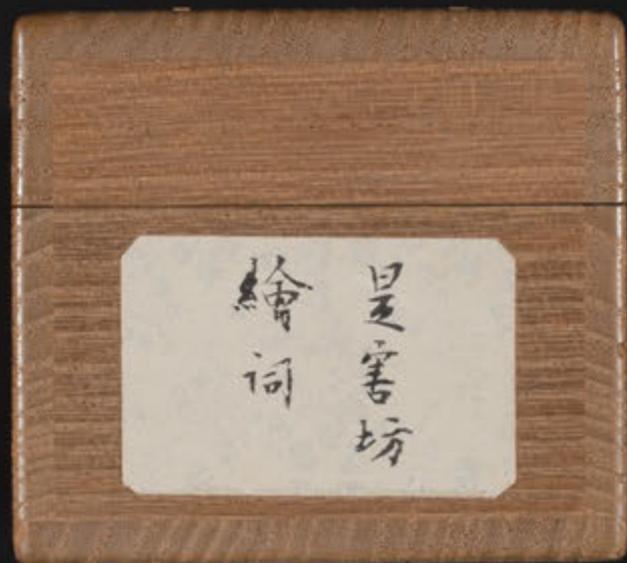


132X
57
1

是
害
坊
繪
詞

符野探幽本寫
着彩



繪詞
呈害坊

さるんは吾界をようきくあまをまうくにいはいふ
 天台の佛法権實二道にまうち又うまうのれい
 つく(きん)うまんのあかたやとくかのまいた
 けりひまかしく思ふたるたかたの心いづつて
 カをとくをこま(し)として吾界坊の老らる法師の
 すこに成てうけいそのまう坊の家か人よえ
 きたれ(志)のいええころの木後よりゆけ

うーのあてのときけるよ折良せんく学院
 よきい律師内裏の(心)也法のためふりたり
 あり汝人(心)うまゆ(心)そりま(心)つ
 六(心)んこ(心)るあに(心)ん(心)て(心)い



かのせうい坊次
 こして(心)い(心)り
 きたん(心)れ(心)あ(心)し
 とて(心)あ(心)う(心)は
 け(心)ん(心)う(心)い(心)も
 う(心)ん(心)う(心)の(心)い
 勢(心)い(心)坊(心)い(心)り(心)に
 こ(心)れ(心)も(心)い(心)かり(心)や(心)そ(心)く(心)か(心)ん(心)に(心)あり(心)は(心)み(心)よ
 律師(心)す(心)ま(心)ひ(心)て(心)な(心)ま(心)ち(心)坊(心)本(心)け(心)り(心)立(心)出(心)く
 い(心)ま(心)ち(心)う(心)法(心)か(心)り(心)あ(心)い(心)は(心)つ(心)と(心)は(心)是(心)界(心)坊
 の(心)ア(心)や(心)う(心)ま(心)ん(心)あ(心)ん(心)つ(心)つ(心)う(心)に(心)水



丁して白き紙おくら日かの鏡の
ありさ女くはら

女御
そのまのいんまに
にいおのいんまに
えんまふいこ



あしかりやきししをうせう大原かおしほの
きれはまほい進は國水海にくれいふもくち成
くもいかりりこ

清和天皇と柏原の王子と春宮とりのまひ
多の一時も志んせいにかいこの世らうく
急そやう清和の池をたりおとせいでんを
ましくりに柏原すくに春宮よこまのり
あやしいまは急そやうかつこ成くこひて
こまのろいんにく(ろり)大原くちまに
くはまろひて清和まふにくちろひのぬ
志んせいこととてまのままうに入ら
そしちちをかく事おりき(ま)たしこま
おほまとし(ま)のまのまのまのまのまの
ましくこの成



いふれさやうも

あつたぬふせいりし

おも霞旦の名はようめいの

あつた初

いんの名をせし

日下と小国か

あかほり

そのせの我れはるは神國

の物と出て日いきふ

たれ仏法を守護

多入神功皇居

あやうくち子は

吳國のゆせ

にすくまかりせん

いよいんや徳頂赤梅垣

紫磨金のきやう

あつたはる

かうつらん

さうけい

極楽

を中

さうく

あつたはる

のつかう

あつたはる





善薩の正法に入らざりて
 心はまやう交相正とけり
 由別
 仏いん
 善薩の正法に入らざりて
 心はまやう交相正とけり
 由別
 仏いん







能中 佛はあぢこ是れ折返せんぬのころ
 今の慈悲大師も十一面のをまんにしてふいの眼
 ちうい後アうふれいついふあうちういふいふい
 日本の小天白たふや一物にしてあうりうり一物に
 次々まやう思のうくちあく一うかまつちを録よ
 音界りあうまいたはけかこすゆねり
 おしせい坊く

いやうくいなりの音界坊大ねくこをを
 かいめにういふうらやうもあはひあうね
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる

いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる

いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる
 いやういふあふとからる





入唐ししあひくわあつとるまてし
おは(り)



大唐の靈地こまうにせんういーんとせは
ちう坊やううやーおんせのこく一樹のけの
やう一河の流をくもとれたやのちうり
せんハばねすれもくぬりけちあん
定てじかーめしはふまやーさやー急の
ちあーのちやーもくいささそふー吳毅
のまんにありてきいさんめあさにいあつ
ちと抛きーゆけくつくのまんとむい
て天まーらんつにあつり物くは道の
ゆるりとぬく皆あせのちやーの力し
まゆくさくさぬくわさーひとの急巻
大師ハ控現のまきんらーの急巻
又是仏法ちあこのせんそーきん急巻
まがせとかしう音とせん生死嶮岨のせん

いふをうらまひのよひの誠をいふの
ちつ坊のいふよはる実相とんすれく
ふたのまうし佛のいなる方は一如と現付の
谷のまんとまといふて

居界坊のいふやくとんとのゆき
まよのいふこととんあつせいのえんぬ
ちつ坊と藤おきの酒とやうくすまぬ
いとまやして本國かつちつ坊のいふ
谷坊のいふよはる実相とんすれく
震旦まてのいふてわいひとある松山の
まよのいふて神坂まてのいふて
一首
打とてかつちつ坊のいふ
のいふてたにちある神か

とわくけきい居界坊也なり
おひの浪と橋の松ふさかひて
月うやまてわきほまね

寛文十一年十月廿二日

三つるをよきあて

はとるなり

